

Sky Seminar

イノベーションと起業家精神



起業家精神(アントレプレナーシップ)に満ちた新規創業による雇用増大の必要を説いたのは、「マネジメントの父」とよばれるピーター・F・ドラッカー氏である。日本の経営者には、彼の書籍を愛読するファンが大変多い。ごく最近ではユニクロの柳井正社長が「わがドラッカー流経営論」を出版し、ユニクロの経営にドラッカー氏の経営論がどれほど大きな影響を与えたかを著している。またドラッカー氏自身、予想だにしないだろうが、日本の高校野球の女子マネージャーにも影響を与えたようである。『もし高校野球の

女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』がベストセラーになり、映画化されている。一方、貧困問題・格差問題・教育問題・環境破壊など、グローバルに広がる社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・ビジネスに注目が集まっている。飢餓や貧困に苦しむバン格拉デシュの人々、特に女性に対して小規模の金融サービス(マイクロファイナンス)を行い、彼女たちの経済的自立による貧困からの脱出を目指すグラミン銀行。ホームレスを支援するために雑誌を出版・販売するビッグ

イシュー。カンボジアの少女買春を防止するための事業活動を展開する「かものはしプロジェクト」などの多くの活動が展開され、社会的起業家(ソーシャル・アントレプレナー)が輩出している。

小さな試みであるが、昨夏、アジア・アフリカ国際奉仕財団の協力を得て学生7人とインドの貧しい小学校を訪問した。現地の小学生の母親達に仕事を提供し、その収入で子ども達が小学校へ継続して通えるような仕組みを創り出すのが狙いだ。母親達は小学校の授業が終わった午後、皮製ケースの製作を担当する。学生達は製品開発のアイデアを出し合い、資金や資材を調達し、母親達への製作指導も行って、日本での皮製ケースの販売を担っている。

学生達は蒸し返るインドの暑さの中で夜を徹して議論し、実践に移していった。社会的課題解決のための強いチャレンジ精神・起業家精神を感じた瞬間だった。

世界には解決すべき社会的課題が山積している。困難な状況の中でこそ、イノベーションに向けてチャレンジする起業家精神が必要だ。東日本大震災を乗り越えるためにも、改めて起業家精神の大切さを認識したい。

定藤 繁樹

関西学院大学
経営戦略研究科教授

さだとう・しげき
1975年京都大学法学部卒業後、大阪ガス入社。1985年ジョージワシントン大学経営行政大学院へ留学。帰国後、海外新規ビジネスを担当。96年神戸大学大学院経営学研究科でMBA取得。98年より京都リサーチパークで大学発ベンチャー育成や産学連携を担当。2002年光ファイバー破壊検査機器システム開発会社を創設。2003年より関西学院大学教授。
『ベンチャー企業経営論』(共著・有斐閣)、『ベンチャービジネスと起業家教育』(共著・御茶の水書房)等。

世界市民を育む、学びがある。



関西学院大学

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番153号

